

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

リフォームが趣味

わが家の改装が趣味ともいえる知人がいる。外装を塗り替えたと思ったら、インナーサッシを取り付けする。しばらくすると玄関ドアを取り替え、また少しするとクロスではなく漆喰風の塗り壁にしていた。

リフォームの仕事をしている私がいうのもおかしいが、家を直そうと思ったら費用の心配だけでなく、引っ越し騒ぎのように物の片付けが大変だ。職人の作業スペースを考えれば、取り散らかったままでは開始できない。物だけではなく、家具の移動に伴う家具内部の物の一時避難などがある。リフォームを思いついた時のワクワク感から、準備が進むにつれてボルテージは下がり、こんな思いままでして何でやることにしたのかしらと思う場合もあるのだ。

だが、この知人はそんなことはお構いなく、次々とリフォームを思いつく。良い商品が出たと私が話すと、食い入るように関心を示し、すぐさま検討に入る。そしてやるとなったら行動は早い。リフォームの話ではなく、新しいおもちゃ

を欲しがると子供や、新機種をいち早く買いたがる……マニアのようだ。

当初、私にはこのリフォームが脈絡なく行っているように思えたのだが、よく考えてみると、時代性に大変マッチしたリフォームであることに気づいた。外壁塗装は綺麗になることだけが目的ではなく、工法として断熱材を混ぜ込んだ新しい骨材を使ったエコリフォームを選択。玄関ドアの交換も、昔は廻りの外壁や床のタイルを壊すので思うよりもおおごとだったが、今は簡便に取り替えられるリフォーム商品が出ている。

だが、飛びついた理由はそれだけではなく、断熱サッシとしての玄関ドアに魅力を感じていたのだ。断熱としてのインナーサッシもその延長線上なのだろう。そして壁の改装もクロスの張り替えではなく、調湿性の高い塗り壁にした理由がよく分かった。スマート住宅へのリフォームを着実に進めていたのだ。

この知人は男性のだが、見ていると大変楽しそうに、「今日は職人が来ているはずだ！」といそいそと家路についていた。仕事でのストレスとは程遠い湧き上がる喜びがあるようだ。確かに家が変わるといことは気分転換としては最高だろう。

女性はストレス解消に美味しいものを食べるか、買い物をする。買い物では洋服を買うことが多いのだが、これがどんどんクロウゼットを狭くし、洋服がすし詰め状態になる。

それに比べて、家のリフォームは、食べ物や買い物のように一過性ではないし、また自分だけではなく、家族みんなにとって快適空間をもたらす。

知人はリフォームが終わったと思うと、さて次はわが家で何ができるのだろうか？ と次々とリフォームへの期待が浮かび上がってくるのである。

そして、リフォームにもなう片付けにより綺麗になったわが家を眺めて、さていつまでこの整然とした状態が保たれるのだろうかとも思っているようだ。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。日本建築家協会正会員。